

関西国際大学の学修成果の評価に関する方針

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行います。具体的な評価方法は以下の通りです。

1. KUIS 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーション能力の評価に使用します。これら 5 つの到達目標を測るために、12 項目の測定尺度を設定した KUIS 学修ベンチマークルーブリック（評価基準表）を作成しています。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行います。また、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行います。

- ①大学レベルの評価は、KUIS 学修ベンチマークの学生チェックデータの集計により行います。
- ②学科レベルの評価は、学科別の達成割合の集計により行います。
- ③学生個人レベルの評価は、学生自身の自己評価と、担当のアドバイザーの確認により行います。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価します。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用します。

- ①大学レベルの評価は、学生（一部）の卒業論文の評価結果の集計により行います。
- ②学科レベルの評価は、学科別に卒業論文の評価結果の集計により行います。
- ③学生個人レベルの評価は、卒業論文のルーブリック評価等により確認します。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2 年終了時に到達確認試験を実施して評価を行います。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4 年の卒業研究を履修するための要件です。この試験の不合格者には再試験を行います。

- ①大学レベルの評価は、到達確認試験の結果の集計により行います。
- ②学科レベルの評価は、学科別の到達確認試験の結果の集計により行います。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行います。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多面的に行います。

- ①学生個人レベルの評価は、リフレクション・デイで配付される成績表、テストやレポートの評価結果により、学修到達目標の達成状況を確認します。

各方法の実施時期等は下表のとおりです。

方法	名称	実施時期	評価項目	手法	対象レベル
1	KUIS 学修ベンチマーク 【1～4年】	毎年9月・3月のリフレクション・デイ、及び卒業時	学科のディプロマ・ポリシー(1)～(5)の評価	ベンチマークチェックの集計	大学 学部・学科 学生個人
2	卒業研究の成果 【4年】	毎年9月(秋卒業者)・2月(春卒業者)	学科のディプロマ・ポリシー(6)の評価	ルーブリックによる評価の集計	大学(sampling) 学部・学科 学生個人
3	到達確認試験 【2年】	毎年3月	基礎的な専門基礎・技能の定着	筆記試験結果の集計	大学 学部・学科
4	各科目の成績評価 【1～4年】	毎年9月・3月のリフレクション・デイ	各履修科目の学修到達目標	成果物(総括テストの答案やレポート)の確認	学生個人

上記以外の評価方法として、大学レベルの評価では、学修行動調査を実施し学修成果の評価を利用します。学科レベルでは、国家試験や教員採用試験の合格率などにより学科の教育力を評価します。また、学生個人レベルでは、各種テストによる学生の学力等に関する評価を行います。

その他、学生調査による大学の施設やサービスなど学修環境に関する評価を行い、教育改善並びに学修・学生支援を行います。